整理番号

D－2－4　　663

標 題 名

閻魔蟋蟀の誘致毒餌

著 者 名

発行者名

福岡県立農事試験場豊前分場

発 行 年

昭和９

製作年月

平成２８年１０月

昭和九年十月

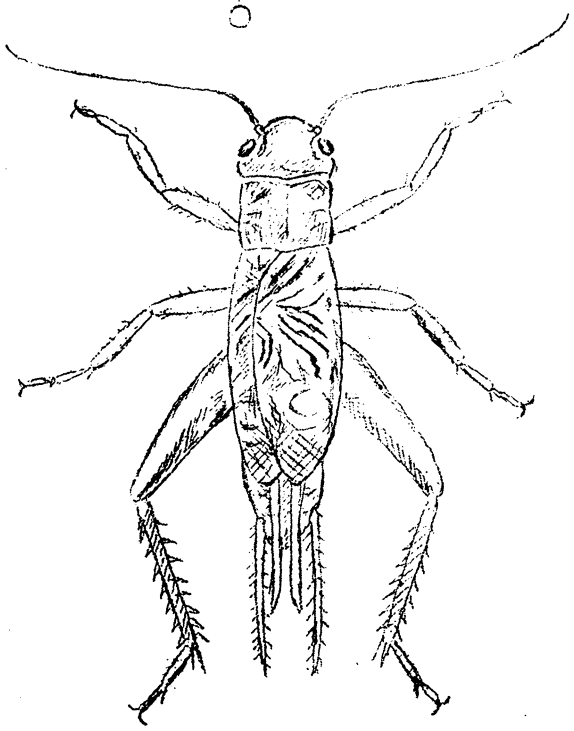
閻魔蜻蛉の誘致毒餌

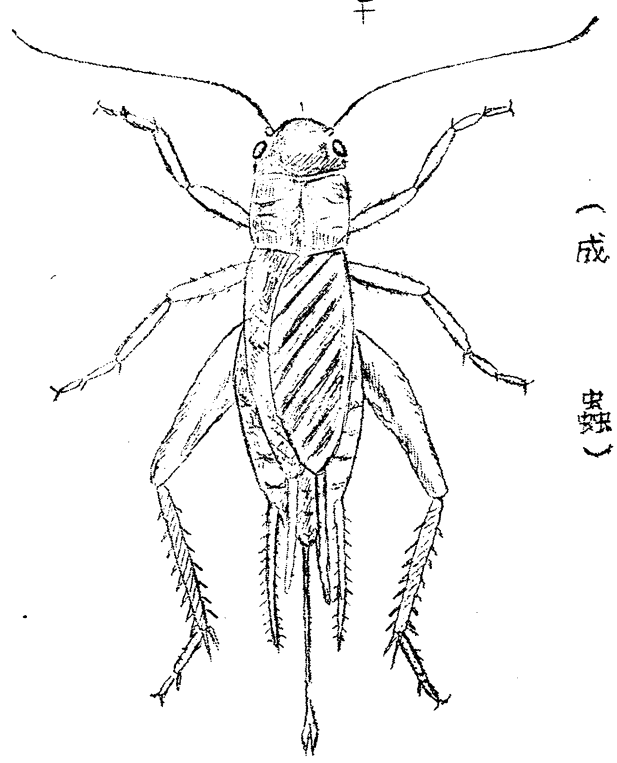
福岡縣立農事試驗場豊前分場

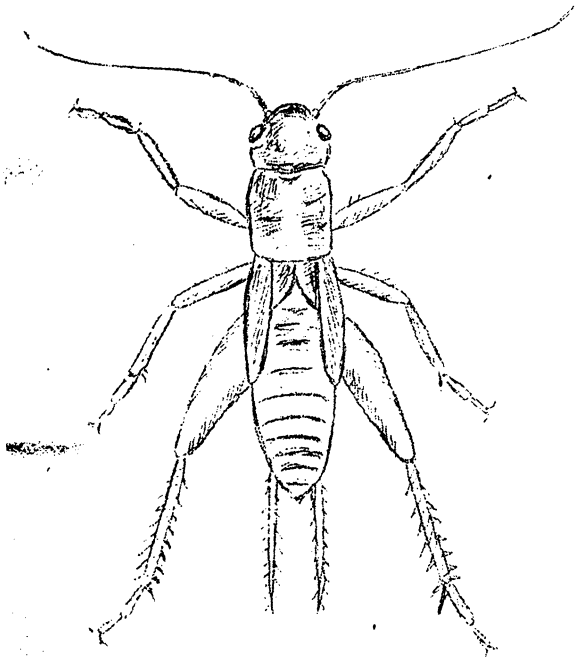
♂

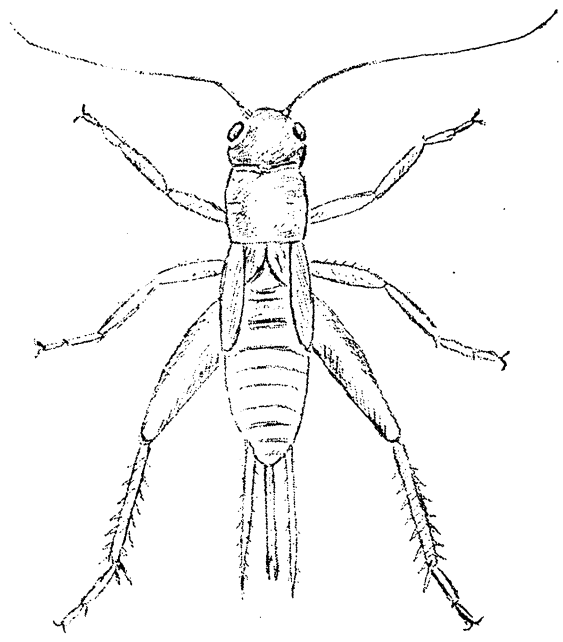
♀

（成虫）





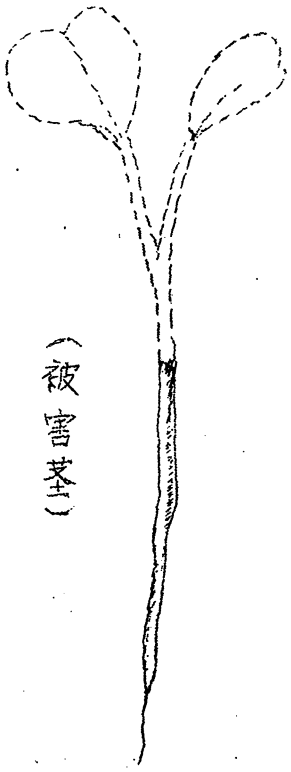




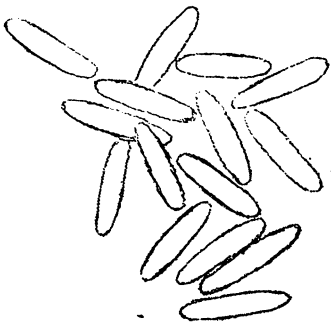
♂

♀

（幼虫）



（被害茎）



（卵）

（稲穂ノ被害）

（蔬菜ノ被害）

「エンマコホロギ」ノ誘致毒餌

エンマコホロギ *Gryllus mitratus* Burm. ハ秋蔬菜ノ大害蟲タルノミナラズ、昭和九年ハ特ニ稀有ノ大旱魃ニ遭遇シ水田ノ乾固龜裂セルニ乗ジ水稲ノ莖部ヲ咀嚼シ又穗ニ匐ヒ昇リ籾ヲ害スル等甚シキ慘害ヲ見タリ。

本蟲ハ年一回ノ發生ニシテ卵態ニテ越年シ六月頃孵化シ幼蟲ハ數回ノ脫皮ヲ經テ九月上旬成蟲トナリ、幼蟲成蟲共ニ八月中旬ヨリ十月中旬ニ亘リ幼稚ナル作物ノ莖葉又ハ稲ノ穗ヲ喰食シ大害ヲ爲ス。

加害作物ハ白菜、蘿蔔、胡蘿蔔、菠薐草、甘藍、菜種、蕎麦、稗、粟、水稲、陸稲、馬鈴薯其他花弁類等ヲ喰害シ、極メテ雜食性ニシテ、又住居ニ侵入シ衣服、蚊帳、乳及リモ加害シ所謂動物及植物性ノモノヲ喰食スル習性ヲ有ス。

成蟲ハ長キ産卵管ヲ有シ十月上中旬ヨリ下旬ニ堤防、畦畔等ノ雜草内又ハ石下、塵埃下ノ土中一寸位ノ下ニ數粒宛縦ニ數々産付ス。卵ハ乳白色ニシテ長楕円形ヲ爲シ、一雌ノ産卵數ハ三百三十二粒ニ達ス。幼蟲ノ期間ハ約二ケ月許ニ亘リ頗ル

ナル口器ヲ有シ、作物ノ軟弱ナル茎、葉部ヲ噛食シ、又苗ノ莖元ヨリプツツリ喰ヒ
ツリ惨ノ害ヲ呈ス。最モ加害ノ甚シキ時期ハ八月中旬ヨリ十月中旬ニ至ル期間トス。
之ガ驅除予防法トシテハ潜伏所ヲ作リ、嗜好スル食物ヲ配置シ誘殺スル方法ニシテ
假令ハ古叭ヲ準備シ、枯草ヲ詰込ミ、之レニ瓜類（南瓜、西瓜、胡瓜）又ハ炒糠等ヲ入レ
誘致シ駆除スルハ最モ簡易ナル方法ニシテ広ク行ハル。又適当ナル潜伏所ヲ作リ
火ヲ放チテ燒キ棄ツルガ如キ、又アンスラセン系ノ嫌忌剤ヲ畦畔堤塘ニ撒布シ、
圃場ニ近寄ラシメザル様ニシ、又板、網等ヲ張リ所謂防禦帯ヲ作リ侵入ヲ防
止スルモノ方法トス。一面最モ嗜好スル作物!!結球白菜系ノモノヲ一隅ニ犠牲的ニ
捨テ蒔キニシ目的トスル作物ニハ砒酸鉛、砒酸石灰、煙草灰等ノ薬剤ヲ撒布シ
之レガ喰害ヲ保護スルガ如キ、効果ノアル方法トス。
而シテ誘致毒餌ヲ用ヒ之レヲ駆除スルハ最モ効果顕著ナル方法ニシテ、
現在欧米諸国ニテハ飛蝗類ノ駆除ニ飛行機ヲ用ヒ大規模的ニ毒餌撒布
ヲ應用シツツアルノ現況ナリ。爾来我國ニ於テハ誘致毒餌トシテ亞砒酸毒

團子又ハ亜砒酸毒液ヲ用フル方法、及ビ ネコイラズ(黄燐)毒餌ヲ用フル二方法ガ行ハル。前者ニハ一得一失アリテ黄燐系毒餌ハ最モ速効的ニ毒作用ヲ及ボシ、五時間(ヨリ廿四時間)内外ニテ斃死セシムルモ毒力永續性ニ乏シク効果ハ二日間位ナルニ反シ亜砒酸系毒餌ハ毒作用緩慢ニシテ四日間ヲ要シ漸ク致死セシムルモ効力存置期間一週間位ニ及ブ。故ニ両者ヲ併用シ数回連續使用スレハ駆除ノ目的ヲ達シ得ベシ。

毒餌ノ種類及調合量

I 砒素系毒餌(二反歩使用)

イ. 亜砒酸毒團子

米糠(又ハ麦糠及麦粉)	一升(一、〇〇〇匁)	(三七五瓦)
黒砂糖	二〇匁	(七、五瓦)
亜砒酸	一〇匁	(三、七瓦)
焼酎	一合	(一八〇粍)
水	三合	(五四〇粍)

赤染粉	〇、五匁（一、八瓦）

ロ亞砒酸毒液（尾関氏考案）

亞砒酸	一二〇匁（四五〇瓦）
重炭酸曹達	一二〇匁（四五〇瓦）
砂糖	二四〇匁（九〇〇瓦）
蜂蜜	二四〇匁（九〇〇瓦）
酒	一合五勺（二一六竓）
水	七升五勺（一三五立）

ハ黄燐系毒餌（二反歩使用量）

イ．ネコイラズ單用塗抹毒餌

南瓜	一貫匁（外胡瓜、西瓜等用フ）
ネコイラズ	一本　四、八匁（一八瓦）

二寸角大ニ切リ塗抹

ロ、ネコイラズ毒餌

南瓜　一貫匁（胡瓜、西瓜、馬鈴薯ニテモ可）
ネコイラズ　四、八匁（一八瓦）
黒砂糖　四、八匁（一八瓦）
麦粉　二〇匁（七五瓦）
焼酎　一夕（一九粍）

今毒餌使用ニ関シ注意スベキ諸點ヲ述ブレバ次ノ如シ。

一、誘致毒餌ハ猛毒ナル毒剤ヲ配剤セルモノナルヲ以テ、之レガ取扱並配置後ノ處置ニ就キ最モ細心ノ注意ヲ拂ヒ、小供ハ勿論、牛馬、家禽等ノ近寄ラザルコト。

二、毒餌配置ノ區域ニハ繩張スルカ又ハ毒餌使用ノ標札ヲ立テ、牛馬ノ飼料ニ供セザルコト。

三、誘致毒餌ハ八月十日前后（蔬菜ノ播種前）ヨリ実施シ、数回繰返シ施行スルコト。

以誘致嗜好物トシテハ麥糠、米糠、豆腐粕、黒砂糖、燒酎等用ヒラレ、又南瓜、胡瓜、西瓜、茄等ノ残物モ利用セラル。

以誘致毒餌ハ枯草、敷藁、石垣等ノ蔽蔭下ニ配置スルコト。

尚調査試験セル成績ノ概表ヲ挙グレバ左ノ如シ。

○各種毒餌誘殺試験（其ノ一）

毒剤ノ種類	総数	斃死 第一日目	斃死 第二日目	死数 第三日目	死数 第四日目	死数 第五日目	計 生	計 死	死滅歩合
ネコイラズ塗抹	一〇	九	一	〇	〇	〇	〇	一〇	一〇〇%
青酸加里〃	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇	〇	〇%
亜砒酸〃	一〇	〇	〇	〇	一	六	三	七	七〇%
昇汞〃	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇	〇	〇%
炭酸バリウム〃	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇	〇	〇%
標準（毒剤ヲ用ヒズ）	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇	〇	〇%

備考

一、試験開始、昭和九年九月六日午前十時三十分

一、青酸加里、亜砒酸、昇汞、炭酸バリウム、ハモ毒液ヲ塗抹ス。

○ネコイラズ塗抹（軍用）毒餌試験成績（昭和九年八月調）（其ノ二）（イ式）

試験別	供試蜘数	一昼夜後死滅数	二昼夜後死滅数	死滅率合
白瓜細片ニネコイラズ塗抹	一〇	一〇		一〇〇%
胡瓜細片ニネコイラズ塗抹	一〇	一〇		一〇〇%
冬瓜細片ニネコイラズ塗抹	一〇	一〇		一〇〇%
茄子細片ニネコイラズ塗抹	一〇	一〇		一〇〇%
番茄細片ニネコイラズ塗抹	一〇	一〇		一〇〇%
米糠ニ亜砒酸添加	一〇	九	一	一〇〇%
黒砂糖ト硼砂液ヲ南瓜ニ塗抹	一〇	三	一	四〇%
標準	一〇	〇	〇	〇%

ネコイラズ塗抹（軍用）毒餌試験（其三）（イ式）

シャーレー飼育區（径一五糎）　昭和九年八月中四十五日調

試験區	供試蟲數	第二日目死滅數	死滅歩合
胡瓜ニネコイラズ塗抹第Ⅰ	一五	一五	一〇〇%
第Ⅱ	一五	一五	一〇〇%
第Ⅲ	一〇	一〇	一〇〇%
標準	一〇	〇	〇%

飼罐飼育區（径二〇糎、高二〇糎）　昭和九年八月十四、五、六日調

試験區	供試蟲數	第二日目死滅數	第三日目死滅數	死滅歩合
胡瓜ニネコイラズ塗抹第Ⅰ	二〇	一九	一	一〇〇%
第Ⅱ	三〇	二六	三	九七%
標準（胡瓜ノミ與フ）	二〇	〇	〇	〇%

ネコイラズ毒餌試験（其ノ三）（昭和九年[illegible]）

試験区別	供試数	毒餌供食時間	一昼夜後（九日午前十時）ニ於ケル死滅数 成虫♀	仝♂	幼虫♀	仝♂	計	死滅歩合
金鋼罐 I	一九	十月八日午前十時	一〇	九	｜	｜	一九	一〇〇%
金鋼罐 II	一二	仝	六	五	一	｜	一二	一〇〇%
仝 III	一七	仝	八	九	｜	｜	一七	一〇〇%
シャレー IV	一〇	仝	八	二	｜	｜	一〇	一〇〇%
仝 V	一一	仝	八	三	｜	｜	一一	一〇〇%
仝 VI	一〇	仝	六	四	｜	｜	一〇	一〇〇%
計	七九	十月八日午前十時毒餌給與	四六	三二	一	｜	七九	一〇〇%
標準（毒餌ヲ用ヒズ）	二〇	南瓜ヲ給與ス	｜	｜	｜	｜	｜	〇%

野外ネコイラズ毒餌誘殺試験（昭和九年八、九月調）（其ノ四）（イ式）

区別	施行期日	調査期日	コホロギ類死幼虫 ♀	仝♂	仝成虫 ♀	仝♂	其他	斃死合計	備考
麦藁積ノ下	八月十四日	八月十六日	五一	四三	二	七	一 キリギリス	一〇四	ネコイラズ少量

麦藁積ノ下	八月十四日	八月十六日	四一	二九	五	七	ギリギリス 二	八四
胡瓜畑數藁下	九月三日	九月六日	一六	三一	二三七	二一〇	ハサミ〻ム 五	四九九

ネコイラズ少四里
胡瓜畑一畝[illegible]
ネコイラズ一五[illegible]

ネコイラズ毒餌時間調（其ノ六）

昭和九年八月一五日及九月七日施行（イ式）

供試番号	食餌開始	致死時間	致死所要時間
1	午前一〇時二七分	午后四時〇分	五時間三三分
2	一〇、三五	四、一〇	五、三五
3	一〇、三四	三、〇〇	四、二六
4	一〇、二九	三、二四	四、五五
5	一〇、三二	三、〇〇	四、二八
6	一〇、三五	四、〇〇	五、二五
7	一〇、三〇	三、一五	四、四五
8	一〇、三二	四、一〇	五、三八
9	一〇、三〇	三、一五	四、四五
10	一〇、三七	三、二五	四、四八
11	午前一〇時一五分	午后四時四五分	六時間三〇分
12	一〇、三〇	二、五六	四、二六
13	一〇、三〇	四、二五	五、五五
14	一一、二一	四、五〇	五、二九
15	一一、二一	五、〇〇	五、三九
16	一一、〇〇	四、二一	五、二一
17	一一、〇二	三、五二	四、五〇
18	一一、〇三	三、五二	四、四九
19	一一、一〇	二、三二	三、二二
20	一一、一五	三、二五	四、一〇
平均			五時間六分四五秒

D
2-4
663